



富士山大賞

二〇一九 受賞作品歌集

第四回富士山大賞を催したところ千首余りの応募を受けました。出品されました皆様に心より感謝申し上げます。

多くの力作が寄せられ、その一作一作からは富士山が私達の人生や生活に深い影響を成していることを一層強く感じました。

富士山の雄大な姿を仰ぎつつ日本の平安と世界平和を皆様と共に祈り続けたいと思います。

富士山大賞実行委員会

大賞

これほどに愛されすぎるとも辛し
富士のつぶやき思ひて登る

愛知県 西村 愛美

準大賞

店先にひじきじやが芋煮物の具
御山開きの夏がはじまる

山梨県

羽田 眞智子

富士山を映す水面にツクツクと
苗を植え込み田植機進む

東京都

森田 小夜子

優秀賞

キッチンに本美之主（ホンビノス）貝しずもりて窓のとおくに雪の富士見ゆ

埼玉県 古谷 眞利子

少女等の縄跳びの輪に富士山の見え隠れする午後の明るさ

東京都 大林 明彦

富士山の晴れたる夜は山小屋の明り点々（てんてん）空へと続く

山梨県 渡辺 紀子

高山の真中にひとり杖つきてさみしき極みに充ち足りている

北海道 今村 朋信

山頂の笠雲はもう消えていた日本の白い白歯が笑う

神奈川県 友常 甘酢

ばあちやまの金剛杖は守護神になって広間に鎮座している

群馬県 金子 歩美

開戦の暗号電にもつかはれし最高峰の名の忘るまじ

神奈川県 櫻田 稔

大きいなどても大きい大きいぜこんな器に私はなりたい

山梨県 渡辺 涼

みちのくを描く鳥瞰図にも出づる品川沖より見ゆる富士山

東京都 岡崎 志昂

途中下車横利根川のアーチ橋黒い富士見た退学した日

茨城県 海老沢 幸子

学生最優秀賞

山小屋の小さなあかり見えたとき夏の富士山すぐそこにある

山梨県 柏木 美汐

教室の窓の向こうに見える富士履修の日々が離愁に変わる

山梨県 松下 萌

外国語短歌優秀賞

seen from the snow-cap
the vast plains below
in every direction
the world unfolds
a map of our planet

冠雪の山から見おろす大平原全方向に世界は開くこの星の地図

Beatrice Yell, Australia
オーストラリア

autumn pilgrim
climbing the mountain
with nothing
on his back but
the light of the moon

秋山に登る巡礼一背に何も持たず月光を背負いつつ登る

Stephen Toft, U K
英国

snow ice
at the top of
Mount Fuji
floating between us
silence of unsaid words

富士山の頂には雪の氷、われらの間にある口にださぬ沈黙

Rajandeep Garg, India
インド

外国語短歌佳作

to comfort me
when the crickets go quiet
the murmuring
of a thousand streams
trickling down the mountain

コオロギの鳴き声消えても山下る川の囁きに心和める

Michael H. Lester, USA
アメリカ

we climbed as dusk fell
huddled upon mountain peak
waiting for the sun
before the first rays of light
song of moose filled the valley

夕暮れに登りき山頂に身を寄せ合いき日の出待てば初光差す前鹿の歌谷に満ちたり

Josephine Lofle, Canada
カナダ

dad's shoulders
patient mountain top
my perch
for a stolen view
of a different world

父の肩は我慢強き山頂わが止まり木異なる世界を盗み見るため

Maryalicia Post, Ireland
アイルランド

watching snow-capped
mountains from my classroom
while students write
their final exam essays,
their mountains yet to climb

教室より望む冠雪の山生徒ら登るべき山としてのエッセイを書きいる間

Edward J. Rielly, USA
アメリカ

atamount tracks
marking a sparkling spring
layer on layer
of long-faded footprints
paving my path to the peak

山猫が泉へ通ふ足跡の重なりは我の山頂への道

Autumn Noelle Hall, USA,
アメリカ

returning in fall
to my mountain home
blue violets
give me a resting place
away from the muddy road

山の家に秋に戻れば青スマレが安らぎ与う泥道をはなれ

Michael McClintock, USA
アメリカ

no need
to climb a mountain
or reach
for burning stars
splendor in the grass

山になど登らずともよし星に手を伸ばさずともよし草のかがやき

Genie Nakano, USA
アメリカ

how often
in the works of Hokusai
such diverse aspects
of Mt. Fuji, yet always
his same beloved Fuji-san

幾たびも北斎の画に姿変うれど富士山は彼の愛する「富士さん」

Susan Mary Wade, UK
英国

nowhere
near the top...
the mountain's shadow
comes down
to greet me

何処かわからぬが頂ちかく...山の影が下りきてわれに挨拶をする

Bob Lucky, Saudi Arabia
サウジアラビア

breathing in the
crisp fresh
air at the summit of M.
Fuji my last memory
with grandfather

身の引き締まるような新鮮な空気 吸う富士山頂での祖父との最後の思い出

Christina Sng, Singapore
シンガポール

I embrace the peak clutching
freedom in my hands
an escape –
as the weight of the world
lies beneath me

私は頂を抱きしめる 我が手に自由をしっかりと掴んで解放—世の中の重荷が
私の下方にあるから

Nerisha Kemraj, South Africa
南アフリカ

my mother's dream
ascending Fuji at dawn
through the mist
I scatter her ashes
above the clouds

母の夢—夜明けの富士より雲海に向けて彼女の遺灰を撒きぬ

Tracy Davidson, UK
英国

brightening
the face
of Mt. Fuji
a gentle stream
of day hikers

富士山の顔を明るくするように真昼の登山者のやさしき流れ

Julie Bloss Kelsey, USA
アメリカ

in my dream
Mt Fuji has moved
to the moon
I reach over to feel
your hand in mine

富士山が月に移りし夢を見て君が手求め手を延ばしたり

Kath Abela Wilson, USA
アメリカ

rising through
myriads cherry blossoms
Mount Fuji
unseen birds around us
keep singing her praises

富士山は無数の桜の中に立ち周りの見えぬ鳥たちに讃えられおり

Anthony Itopa Obaro, Nigeria
ナイジェリア

the mountain breeze
sweeps fresh blue
into my hands
frost
emerges on the eyelashes

山かぜは新鮮な青色をわが手に運びまつ毛には露宿る

Kristina Kroupa, Croatia
クロアチア

the post card
written “It is so cool here!”
with the stamp
“the top of Mt. Fuji”
arrived in the middle of August

「富士山頂」のスタンプ付きて涼しいよとふ葉書届きぬ葉月半ばに

Hiroko Sato, Japan
日本

the majestic Fuji
even on the TV screen
makes my eyes wet
with strong nostalgia
when living in a foreign land

とつくにで眺むテレビの富士でさえ望郷つのり涙ぐむ我

HIROKO FALKENSTEIN, U.S.A.
アメリカ

steadily
to climb up a mountain
with short steps
my father taught me
when we climbed Mt. Tate

着実に歩幅小さく登るんだ父と目指した立山山頂

Tomoko Mikami, Japan
日本

The evening star
twinkles as if
encouraging me
around Mt. Hakone
that is my mother's hometown

金星は母のふるさと箱根山のあたりで輝く励ますように

Atsuko Nakamura, Japan
日本

佳作

灼熱のこの赤富士を目の前に君なら如何(いか)に描く(えがく)かピカソ 池水 一美

春蟬の幾万の声とてつなき富士の樹海の深さを恐る 藤田 幸子

富士のつくしこ名の幕内ふたりなる令和元年夏場所初日 庭野 治男

国分寺線車中に富士の見えながらふいと隠るるへ恋ヶ窪Vあたり 栗原 良子

富士山を誤差修正に暫し借り日本全図を忠敬作る 富野 光太郎

立ち漕ぎの自転車連ねて追いかけた富士の稜線またいだ虹を 市之瀬 進

伝統の手漉きの和紙に漉きこんだ富士の姿を朝日に透かす 永井 英男

休火山という括り無くなりて富士山の稜線は三十度のまま 宮川 潤

復員船小島のごとく「富士見ゆ」と喜べどなほ遠く幾日 上ノ山 亜紀

筑波山にかつては歌垣ありしとう歌会の旅を霧は覆いき 小守谷うた子

配達を了へてひと息屋上に富士眺むるを日課としたりき 赤澤 孝
ブランコを思いきり漕ぎ吸われそうあの大空に南部の富士に 三浦 優
富士山も私も進化しています誰も気付かぬほどの速さで 岡本 恵
両の手にほわり茶碗の中の富士その山麓に薄茶煌めく 土田 真弓
面接の待合室の窓にみるビルの麓にかがやく富士を 黒乃 響子
御来迎の富士山頂に立つ我に汝が影なりと告げし人はも 竹下 富子
火山砂が足をのみこむ須走に富士を背負いて走り下りき 新美 喜代男
北国の初三郎のアトリエの鳥瞰図に見る遥かなる富士 木立 徹
富士見つつスカイツリーの窓をふく一度やりたしゴンドラに乗り 土屋 昌也
車窓から見れば富士山腰を据え初上京の我を見送る 細江 美幸
山麓の女孫の部屋に真向し富士の雪嶺ふくらみて見ゆ 武田 静江
水張田に写りし富士を背景に機中の人となりて子が飛ぶ 豊田 ミツ子

富士の立つ国守らむとかの夏を星のひとつの父の征きたり 眞庭 義夫

「ウルトラ完走！」友のメールに添付さる輝く富士と桜のコラボ 大熊佳世子

富士山を描けと言われて描けないと応える人のいない日本 和田 直樹

雲晴れて車窓に映る富士の峯見ながら食べる冷凍みかん 佐藤 綾子

起きたとたん朝日とともに富士山が静かにおはようわたしに言った えじまさゆり

冬富士の五合目に見つむ宝石の湧き出たごとき甲府の夜を 吉田 紋子

未踏なる山ただきを極めんとスパコン「富岳」開発進む 丸野 幸子

空近きここは世界の中二階 ゆき交う人の挨拶さやか 金原 弓起

花かげに富士を映して朝の庭われに湧き出づ無形の方 内藤富士子

誰も名を知らない坂に夕ぐれの大きな山の大きな姿 古川 稚佳子

萌えいづるものの気配に満ちみつる素黒野にひとり富士を真向かふ 和田明日香

望郷の富士を象(かた)どる兵の墓途絶る(とだへる)間(ま)のなき蝉しぐれ聴く 向笠 律子

富士を背に記念撮影力こぶ見せる男子に私も交じる 小橋 辰矢

静寂のスカイラインを飛び越えて両手に富士を思いきり抱く 新井 聡子

彼方(かなた)ある富士は見えねど雨上り四方(よも)のきららに夕日さしたり 井手ふみ子

この町の夕餉の香りに包まれる電信柱のすきまの富士よ 近藤 千壽

富士山の裾野広かりある時はサリン造りし宗教もありき 川出香世子

かぐや姫月に帰って富士山に不老長寿の薬は燃える 相川 高宏

利尻富士茜に染めて沈む陽を一人見てゐる技術科室に 藤林 正則

富士山がはやく見たいね夜汽車にて○○○人の修学旅行 中澤 明子

ようやくにたどりつきたる頂上に一杯のミルク分けあひて飲む 田口 玲子

富士山の砂さらさらと落ちてゆく一分間の耀きをみせ 矢澤 房代

時を超え富士を続けるその山は和を似ってして陽に黙したる 山内 昌人

一年生、六年生に手を引かれ三河富士へと春の遠足 嶋田 稔

稜線がとけて富士が空になるあなたも同じ富士を見ていた 高山虎之介

遠出して帰宅する時に見る富士は毎回僕を安心させる 大木 雄剛

もう一步もう一步と踏みこめば無限に広がる富士の幻想 舟窪 秋祐

澄みきった鳥の囀り響かせて今日も佇む一人の富士山 舟久保 凜

富士のもと季節の変化知らされるととうとう夏だ頭が見えた 武藤 沙耶
家の外そこにはいつも富士がある世界に誇れる家の窓 安田 美紅
隣から大きな富士に見守られ響く応援カー走らす 渡邊 青空
蟬と子らの富士のふもとに響く声澄む青空に届け梅雨明け 相澤 慶翔
旅に出て帰った朝に富士を見てきれいな青にほっとしている 武藤 彩果
青々とはえる夏草丈伸びて遠い富士にもその色を見る 渡邊 恵美
上がってく花火が一つ空高くうっすら見えた富士の紫 杉村 涼
五日間友といるのが楽しくて富士のふもとで深まる絆 小山 友菜
汗流したどり着くとき時を超えて引きついでいくこの一瞬 水口 愛子
その頭雲をも越える高さなり日本の遺産美しき火山 浅川 湧亜
君がただ四季を楽しむだけなのに満たされていく僕の心 鍋谷 健太
緑色彩やかなとこ黒いとこ少し経ったら白色のとこ 菊島 凜
古の地を踏みしめて頂へ富士を想って歩き続ける 上田 詩
届かない積もりし我の恋心車窓に見える富士の如くに 笠原 希成

【選者】

選考委員長
選考委員

岡井 隆（日本芸術院会員、前宮内庁和歌御用掛）
三枝昂之（山梨県立文学館館長、日本歌人クラブ会長）
穂村 弘（日本経済新聞歌壇選者）

東 直子（東京新聞歌壇選者、早稲田大学教授）

外国語特別審査員

荻田吉夫（元ニューヨーク総領事 元宮内庁式部官長）

上野景文（元バチカン駐劄特命全権大使）

結城 文（国際タンカ協会会長）

【開催団体】

富士山大賞実行委員会

NPO 法人富士山自然文化情報センター

NPO 法人富士山クラブ

世界連邦文化教育推進協議会

全国富士講睦会

一般財団法人 徳大寺文庫

【後援】

外務省 経済産業省 環境省 富士山世界遺産国民会議

【映像協力】

富士山世界遺産センター 山梨県 ロッキード中

【式典会場】

平成三十一年一月二十六日 於 日本橋劇場